

令和4年度
精神科在院患者調査
報告書 [堺市版]

堺 市

目 次

第1章 調査の概要

1 調査の目的及びこの報告書について	1
2 調査の方法	1
(1)調査の対象	1
(2)調査の実施方法	1
(3)調査の内容	1
3 調査結果の概要	2
(1)状態像区分	2
(2)状態像区分〔長期(1年以上)入院者〕	2
(3)状態像区分〔65歳以上の長期(1年以上)入院者〕	2
(4)概要資料	3
①「堺市内精神科病院への入院者数・堺市民の精神科病院入院者数」	3
②-1「大阪府下 堺市民の精神科病院の入院状況(病院圏域別)」	4
②-2「大阪府下 堺市民の精神科病院の入院状況図(病院圏域別)」	4

第2章 在院患者調査結果

1 年齢区分	5
2 入院形態区分	5
3 疾患名区分	6
4 在院期間区分	7
5 入院時の住所地区分	7
6 状態像区分	7
7 退院阻害要因〔寛解・院内寛解群〕	8
8 社会保障関連	9
9 経年推移	10
(1)入院者数の推移	10
(2)年齢区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕	10
(3)疾患名区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕	11

■巻末資料

- ・参考資料1 在院患者調査 集計データ資料 1～6
- ・参考資料2 令和2年度在院患者調査 記入の手引き資料 7～9

第1章 調査の概要

1 調査の目的及びこの報告書について

本調査は、大阪府内の精神科病床を有する医療機関における入院患者の状況を明らかにし、障害福祉政策の基礎資料とすることを目的に、大阪府、大阪市とともに実施した。

この報告書は、その結果を特に本市で活用するために、堺市版として作成した。

2 調査の方法

(1) 調査の対象

令和4年6月30日現在、大阪府内の精神科病床を有する医療機関に入院中の者

(2) 調査の実施方法

大阪府内の精神科病床を有する医療機関（60病院）に調査票を送付し、従事者からの回答（14,992票）を得た。

なお、この報告書は、その中から入院時住所地が堺市である者を抽出したものであり、1,457票を対象としたものである。

二次医療圏域別 精神科病床数(令和4年6月30日現在)

圏域名	保健所名	医療機関数	精神科許可病床数	休床数	稼働病床数	人口(R4.4.1)	許可病床数/万人 ※
堺市	堺市	5	2,537	60	2,477	817,441	31.0
豊能	池田・豊中市・吹田	6	1,987	0	1,987	1,057,036	18.8
三島	茨木・高槻市	7	2,302	108	2,194	756,856	30.4
北河内	枚方市・寝屋川・守口・四條畷	9	1,707	12	1,695	1,127,331	15.1
中河内	八尾市・東大阪市	4	1,458	0	1,458	818,343	17.8
南河内	藤井寺・富田林	6	1,522	0	1,522	583,995	26.0
泉州	和泉・岸和田・泉佐野	17	6,237	91	6,146	872,186	71.5
大阪市	大阪市	6	223	0	223	2,744,847	0.8
計		60	17,973	271	17,702	8,778,035	211.4

※小数点第二位以下四捨五入

(3) 調査の内容

基礎項目は、厚生労働省が実施する「精神保健福祉資料（令和4年6月30日現在）」の調査項目とした。

3 調査結果の概要

(1) 状態像区分

状態像区分ごとの集計結果は、以下のとおりであった。

なお、() 内は前年比、[] 内は全体に対する割合である。※ただし、四捨五入により100%にならない場合がある（以下すべて同じ）。

全体 1,457 人 (-73) [100%]						
状態像 区分	最重度	重度	中等度	軽度	院内寛解	寛解
	54	377	565	310	134	17
	431 人 [29.6%]		875 人 [60.1%]		151 人 (-57) [10.4%]	

(2) 状態像区分〔長期(1年以上)入院者〕

(1)の内訳として、1年以上の入院者（長期入院者）の集計結果は、以下のとおりであった。

全体 861 人 (-38) [100%]						
状態像 区分	最重度	重度	中等度	軽度	院内寛解	寛解
	31	248	382	156	41	3
	279 人 [32.4%]		538 人 [62.5%]		44 人 (-2) [5.1%]	

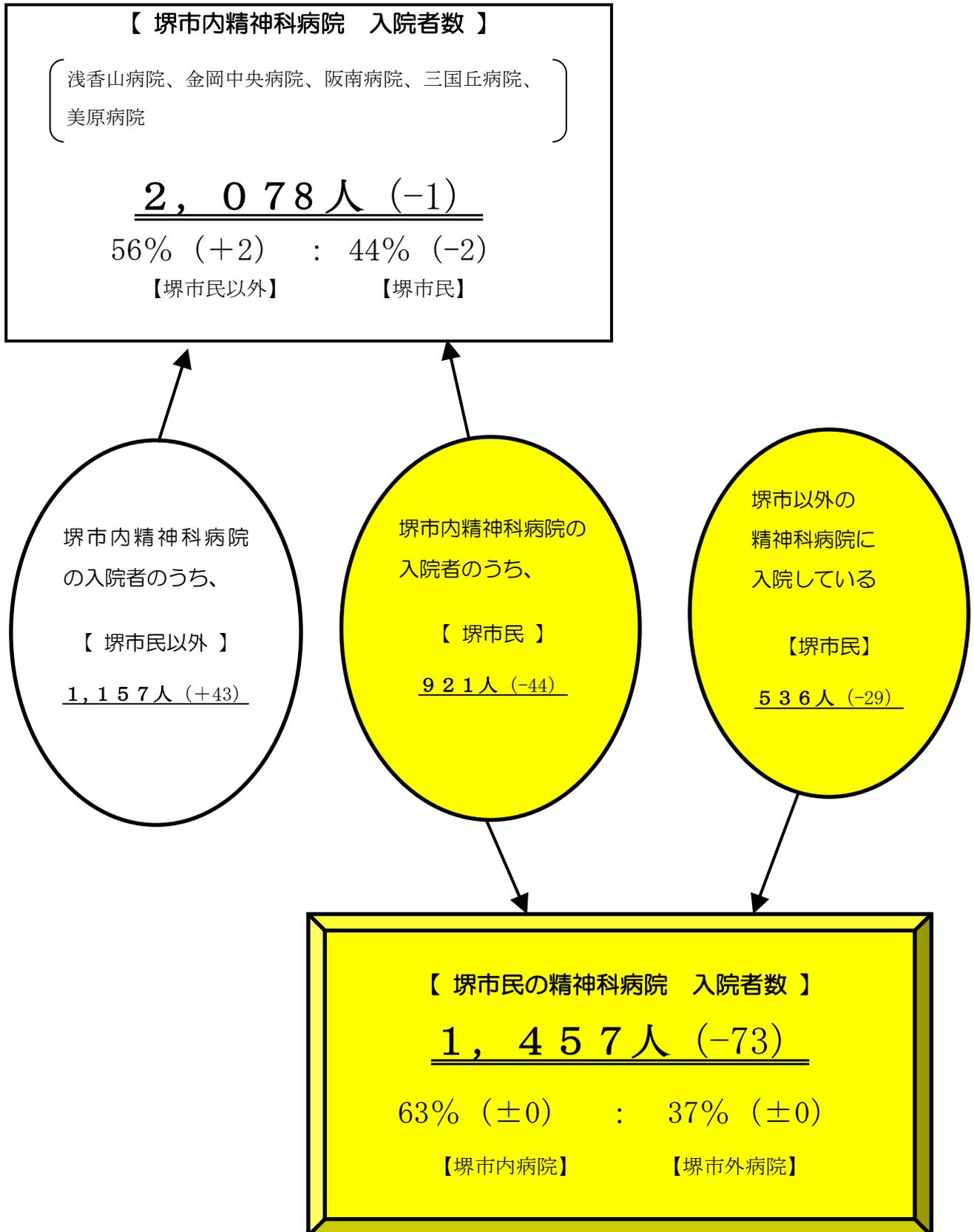
(3) 状態像区分〔65歳以上の長期(1年以上)入院者〕

(2)の内訳として、1年以上の入院者（長期入院者）のうち、65歳以上の集計結果は、以下のとおりであった。

全体 534 人 (-20) [100%]						
状態像 区分	最重度	重度	中等度	軽度	院内寛解	寛解
	11	155	232	105	30	1
	166 人 [31.1%]		337 人 [63.1%]		31 人 (+1) [5.8%]	

(4)概要資料

①「堺市内精神科病院への入院者数・堺市民の精神科病院入院者数」



第2章 在院患者調査結果

1 年齢区分

入院者 1,457 人を年齢区分別で集計すると、以下の表のとおりであった。

「70 歳代」が 24.4%と最も多く、「80 歳代」が 22.6%、「60 歳代」16.6%の順になっている。

※割合については、四捨五入により 100%にならない場合がある（以下すべて同じ）。

年齢区分	人数	割合 (%)	長期(1年以上)入院者数	左記の内寛解・院内寛解
19 歳以下	19	1.3	0	0
20 歳代	46	3.2	6	1
30 歳代	53	3.6	17	0
40 歳代	133	9.1	80	2
50 歳代	214	14.7	135	4
60 歳代	242	16.6	166	11
70 歳代	356	24.4	243	13
80 歳代	329	22.6	179	12
90 歳以上	65	4.5	35	1
総計	1,457	100.0	861	44
65 歳未満(再掲)	592	40.6	327	13
65 歳以上(再掲)	865	59.4	534	31

2 入院形態区分

入院者 1,457 人を入院形態区分別で集計すると、以下の表のとおりであった。

入院形態区分	人数	割合 (%)	長期(1年以上)入院者数	左記の内寛解・院内寛解
措置・緊急措置	15	1.1	0	0
医療保護	862	59.2	481	6
任意	579	39.7	380	38
応急	0	0	0	0
その他	1	0.1	0	0
総計	1,457	100	861	44

3 疾患名区分

入院者 1,457 人を疾患名区分別で集計すると、以下の表のとおりであった。

「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (F2)」が 49.8%と最も多くなっている。

疾患名区分	人数	割合 (%)	長期(1年以上)入院者数	左記の内 寛解・院内寛解
F0 症状性を含む器質性精神病	410	28.1	191	10
F00 アルツハイマー病の認知症を含む器質性精神障害	(216)	(14.8)	(97)	(3)
F01 血管性認知症を含む器質性精神障害	(26)	(1.8)	(8)	(0)
F02-F09 アルツハイマー病の認知症・血管性認知症以外の症状性を含む器質性精神障害	(168)	(11.5)	(86)	(7)
F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	93	6.4	44	6
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	725	49.8	534	15
F3 気分(感情)障害	138	9.5	61	11
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	16	1.1	4	1
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	4	0.3	0	0
F6 成人の人格及び行動の障害	3	0.2	1	0
F7 精神遅滞 (知的障害)	31	2.1	14	0
F8 心理的発達の障害	18	1.2	2	0
F9 小児期及び青年期の通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	4	0.3	1	0
G4 てんかん(症状性を含む器質性障害(F0)に属さないもの)	3	0.2	3	0
その他	12	0.8	6	0
総計	1,457	100	861	43

なお、年齢区分とクロス集計すると、入院者数は以下の表のとおりであった。

区分	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
F0	0	0	1	4	7	31	109	207	51
F1	0	2	4	8	23	21	18	14	3
F2	2	17	33	96	152	161	182	74	8
F3	1	10	5	13	19	22	38	29	1
F4	2	1	2	3	2	1	1	3	1
F5	1	1	2	0	0	0	0	0	0
F6	0	1	0	1	1	0	0	0	0
F7	0	9	5	6	7	1	2	1	0
F8	12	3	1	0	2	0	0	0	0
F9	1	1	0	0	0	0	2	0	0
G4	0	1	0	1	0	1	0	0	0
その他	0	0	0	1	1	4	4	1	1

4 在院期間区分

入院者 1,457 人を在院期間区分別で集計すると、以下の表のとおりであった。

在院期間 1 年未満が 40.8%である一方で、在院期間 10 年以上も 20.2%となっている。

在院期間区分	人数	割合 (%)	寛解・院内寛解	左記の内 65 歳以上
1 ヶ月未満	175	12.0	33	11
1 ヶ月～3 ヶ月未満	194	13.3	47	22
3 ヶ月～6 ヶ月未満	91	6.2	16	9
6 ヶ月～1 年未満	136	9.3	11	4
1 年～1 年 6 ヶ月未満	80	5.5	9	7
1 年 6 ヶ月～2 年未満	69	4.7	4	3
2 年～3 年未満	112	7.7	7	4
3 年～4 年未満	74	5.1	9	6
4 年～5 年未満	65	4.5	1	0
5 年～6 年未満	49	3.4	4	3
6 年～7 年未満	30	2.1	3	2
7 年～8 年未満	32	2.2	1	1
8 年～9 年未満	29	2.0	0	0
9 年～10 年未満	27	1.9	0	0
10 年～20 年未満	162	11.1	5	5
20 年以上	132	9.1	1	0
総計	1,457	100	151	77
1 年未満(再掲)	596	40.9	107	46
1 年以上 5 年未満(再掲)	400	27.5	30	20
5 年以上 10 年未満(再掲)	167	11.5	8	6
10 年以上(再掲)	294	20.2	6	5

5 入院時の住所地区分

第 1 章「3 調査結果の概要」(P.3～4) のとおり

6 状態像区分

第 1 章「3 調査結果の概要」(P.2) のとおり

7 退院阻害要因〔寛解・院内寛解群〕

寛解・院内寛解である入院者 151 人を退院阻害要因の有無で集計すると、以下の表のとおりであった。「退院予定」が最も多く、38.4%となっている。

退院阻害要因の有無 〔寛解・院内寛解群〕	人数	割合 (%)	長期(1年以上) 入院者数
退院阻害要因がある	44	29.1	34
退院阻害要因はない	16	10.6	1
病状(主症状)が不安定で入院による治療が必要	33	21.9	5
退院予定	58	38.4	4
総計	151	100	44

寛解・院内寛解である入院者 151 人のうち、「退院阻害要因がある」44 人の退院阻害要因（複数回答）を集計すると、以下の表のとおりであった。なお、各項目における割合は「退院阻害要因がある」44 人に対するものである。

寛解・院内寛解である入院者で、「退院阻害要因がある」者のうち、長期入院者の退院阻害要因をみると、「退院意欲が乏しい」「退院による環境変化への不安が強い」のほか、「症状は落ち着いているが、ときどき不安定な症状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている」「家事(食事・洗濯・金銭管理など)ができない」が多くなっている。

※複数回答可能

退院阻害要因 〔寛解・院内寛解群〕	人数	長期(1年以上) 入院者数
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている	11	10
病識がなく通院服薬の中断が予測される	10	8
反社会的行動が予測される	5	4
退院意欲が乏しい	20	20
現実認識が乏しい	10	7
退院による環境変化への不安が強い	14	12
援助者との対人関係がもてない	2	2
家事(食事・洗濯・金銭管理など)ができない	13	10
家族がいない、本人をサポートする機能が実質ない	4	3
家族から退院に反対がある	8	6
住まいの確保ができない	7	4
生活費の確保ができない	1	1
日常生活を支える制度がない	1	1
救急診療体制がない	0	0
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	0	2
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい	2	0

住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにくい	0	0
身体的機能や状態を原因とした ADL の低下がある	2	2
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	1	0
その他	0	0

8 社会保障関係(生活保護受給者数)

(1) 年齢区分

入院者 1,457 人のうち生活保護受給者を集計すると、以下のとおりであった。

なお、() 内は前年比である。

区分	全市	市内病院	市外病院
19 歳以下	2	2	0
20 歳代	16	6	10
30 歳代	18	9	9
40 歳代	38	28	10
50 歳代	80	56	24
60 歳代	70	45	25
70 歳代	84	56	28
80 歳代	33	21	12
90 歳以上	4	2	2
総計	345 (-70)	225 (-52)	120 (-18)

(2) 寛解・院内寛解対象

生活保護受給者 345 名のうち、寛解、院内寛解である者の集計結果は以下のとおりであった。

区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
	6	32	38	3	21	24	3	11	14

(3) 長期(1年以上)入院者

(2)の内訳として、1年以上の長期入院者の集計結果は以下のとおりであった

区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
	1	8	9	0	5	5	1	3	4

9 経年推移

(1)入院者数の推移

平成 28 年から令和 4 年までの入院者数の推移は、以下の表のとおりであった。

病院 所在地	入院者数						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
堺市内	1,037	1,016	1,012	1,008	987	965	921
堺市外	587	556	553	559	544	565	536
総計	1,624	1,572	1,565	1,567	1,531	1,530	1,457

(2)年齢区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕

年齢区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕は、以下の表のとおりであった。

なお、[]内は各年度における全体に対する割合である。

年齢区分	長期(1年以上)入院者数						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
19歳以下	0 [0.0%]	1 [0.1%]	2 [0.2%]	1 [0.1%]	0 [-]	1 [0.1%]	0 [-]
20歳代	3 [0.3%]	2 [0.2%]	11 [1.2%]	9 [1.0%]	9 [1.0%]	7 [0.8%]	6 [0.7%]
30歳代	34 [3.4%]	30 [3.2%]	26 [2.8%]	28 [3.1%]	20 [2.2%]	20 [2.2%]	17 [2.0%]
40歳代	118 [11.6%]	99 [10.6%]	99 [10.8%]	88 [9.8%]	90 [10.1%]	89 [9.9%]	80 [9.3%]
50歳代	168 [16.6%]	169 [18.0%]	141 [15.4%]	133 [14.8%]	143 [16.0%]	150 [16.7%]	135 [15.7%]
60歳代	274 [27.0%]	238 [25.4%]	218 [23.8%]	200 [22.2%]	202 [22.6%]	176 [19.6%]	166 [19.3%]
70歳代	258 [25.4%]	244 [26.1%]	255 [27.8%]	260 [28.9%]	235 [26.3%]	239 [26.6%]	243 [28.2%]
80歳代	132 [13.0%]	128 [13.7%]	140 [15.3%]	152 [16.9%]	161 [18.0%]	186 [20.7%]	179 [20.8%]
90歳以上	27 [2.7%]	25 [2.7%]	25 [2.7%]	28 [3.1%]	34 [3.8%]	31 [3.4%]	35 [4.1%]
総計	1,014	936	917	899	894	899	861
65歳未満 (再掲)	434[42.8%]	387[41.3%]	370[40.3%]	344[38.3%]	354[39.6%]	345[38.4%]	327[38.0%]
65歳以上 (再掲)	580[57.2%]	549[58.7%]	547[59.7%]	555[61.7%]	540[60.4%]	554[61.6%]	534[62.0%]

(3) 疾患名区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕

疾患名区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕は、以下の表のとおりであった。

なお、〔 〕内は各年度における全体に対する割合である。

疾患名区分	長期(1年以上)入院者数						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
F0 症状性を含む器質性精神病	153 [15.1%]	143 [15.3%]	162 [17.7%]	173 [19.2%]	185 [20.7%]	189 [21.0%]	191 [22.2%]
F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	48 [4.7%]	37 [4.0%]	34 [3.7%]	31 [3.4%]	38 [4.3%]	47 [5.2%]	44 [5.1%]
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	703 [69.3%]	641 [68.5%]	615 [67.1%]	590 [65.6%]	565 [63.2%]	556 [61.8%]	534 [62.0%]
F3 気分(感情)障害	67 [6.6%]	70 [7.5%]	63 [6.9%]	64 [7.1%]	68 [7.6%]	75 [8.3%]	61 [7.1%]
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	8 [0.8%]	7 [0.7%]	9 [1.0%]	6 [0.7%]	8 [0.9%]	5 [0.6%]	4 [0.5%]
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0 [-]						
F6 成人の人格及び行動の障害	2 [0.2%]	4 [0.4%]	1 [0.1%]	2 [0.2%]	1 [0.1%]	1 [0.1%]	1 [0.1%]
F7 精神遅滞(知的障害)	27 [2.7%]	23 [2.5%]	19 [2.1%]	17 [1.9%]	18 [2.0%]	18 [2.0%]	14 [1.6%]
F8 心理的発達の障害	0 [-]	1 [0.1%]	3 [0.3%]	3 [0.3%]	3 [0.3%]	3 [0.3%]	2 [0.2%]
F9 小児期及び青年期の通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	0 [-]	1 [0.1%]	3 [0.3%]	4 [0.4%]	2 [0.2%]	2 [0.2%]	1 [0.1%]
G4 てんかん(症状性を含む器質性障害(F0)に属さないもの)	5 [0.5%]	4 [0.4%]	3 [0.3%]	3 [0.3%]	2 [0.2%]	1 [0.1%]	3 [0.4%]
その他	1 [0.1%]	5 [0.5%]	5 [0.5%]	6 [0.7%]	4 [0.4%]	2 [0.2%]	6 [0.7%]
総計	1,014	936	917	899	894	899	861

卷末資料

1-① 年齢区分

年齢区分	全市	市内病院	市外病院
19歳以下	19	15	4
20歳代	46	27	19
30歳代	53	35	18
40歳代	133	94	39
50歳代	214	142	72
60歳代	242	152	90
70歳代	356	224	132
80歳代	329	203	126
90歳以上	65	29	36
総計	1,457	921	536

1-② 年齢区分(寛解・院内寛解対象)

年齢区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
19歳以下	1	4	5	0	3	3	1	1	2
20歳代	1	6	6	1	1	2	0	5	5
30歳代	2	6	8	0	5	5	2	1	3
40歳代	3	10	13	2	7	9	1	3	4
50歳代	2	24	26	1	19	20	1	5	6
60歳代	4	22	26	2	11	13	2	11	13
70歳代	1	27	28	1	12	13	0	15	15
80歳代	3	30	33	0	19	19	3	11	14
90歳以上	0	5	5	0	4	4	0	1	1
総計	17	134	151	7	81	88	10	53	63

2-① 入院形態区分

入院形態区分	全市	市内病院	市外病院
措置入院・緊急措置入院	15	13	2
医療保護入院	862	591	271
任意入院	579	317	262
応急入院	0	0	0
その他	1	0	1
総計	1,457	921	536

2-② 入院形態区分(寛解・院内寛解対象)

年齢区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
措置入院・緊急措置入院	0	2	2	0	2	2	0	0	0
医療保護入院	7	39	46	4	27	31	3	12	15
任意入院	10	93	103	3	52	55	7	41	48
応急入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	17	134	151	7	81	88	10	53	63

3-① 疾患名区分

疾患名区分	全市	市内病院	市外病院
F0 症状性を含む器質性精神病	410	248	162
F00 アルツハイマー病の認知症を含む器質性精神障害	(216)	(125)	(91)
F01 血管性認知症を含む器質性精神障害	(26)	(17)	(9)
F02-F09 アルツハイマー病の認知症・血管性認知症以外の症状性を含む器質性精神障害	(168)	(106)	(62)
F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	93	33	60
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	725	501	224
F3 気分(感情)障害	138	88	50
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	16	8	8
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	4	3	1
F6 成人の人格及び行動の障害	3	2	1
F7 精神遅滞 (知的障害)	31	14	17
F8 心理的発達の障害	18	14	4
F9 小児期及び青年期の通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	4	3	1
G4 てんかん(症状性を含む器質性障害(F0)に属さないもの)	3	2	1
その他	12	5	7
総計	1,457	921	536

3-② 疾患名区分(寛解・院内寛解対象)

疾患名区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
F0	3	32	35	0	18	18	3	14	17
F00	(2)	(19)	(21)	(0)	(11)	(11)	(2)	(8)	(10)
F01	(0)	(2)	(2)	(0)	(2)	(2)	(0)	(0)	(0)
F02-F09	(1)	(11)	(12)	(0)	(5)	(5)	(1)	(6)	(7)
F1	2	31	33	0	14	14	2	17	19
F2	3	35	38	1	26	27	2	9	11
F3	4	24	28	4	17	21	0	7	7
F4	1	4	5	0	3	3	1	1	2
F5	1	0	1	0	0	0	1	0	1
F6	1	1	2	1	1	2	0	0	0
F7	1	2	3	0	0	0	1	2	3
F8	1	3	4	1	2	3	0	1	1
F9	0	1	1	0	0	0	0	1	1
G4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	1	0	0	0	0	1	1
総計	17	134	151	7	81	88	10	53	63

4-① 在院期間区分

在院期間区分	全市	市内病院	市外病院
1ヶ月未満	175	114	61
1ヶ月～3ヶ月未満	194	136	58
3ヶ月～6ヶ月未満	91	60	31
6ヶ月～1年未満	136	79	57
1年～1年6ヶ月未満	80	42	38
1年6ヶ月～2年未満	69	42	27
2年～3年未満	112	59	53
3年～4年未満	74	44	30
4年～5年未満	65	39	26
5年～6年未満	49	24	25
6年～7年未満	30	18	12
7年～8年未満	32	20	12
8年～9年未満	29	19	10
9年～10年未満	27	19	8
10年～20年未満	162	109	53
20年以上	132	97	35
総計	1,457	921	536

4-② 在院期間区分(寛解・院内寛解対象)

在院期間区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
1ヶ月未満	6	27	33	3	20	23	3	7	10
1ヶ月～3ヶ月未満	7	40	47	4	29	33	3	11	14
3ヶ月～6ヶ月未満	1	15	16	0	9	9	1	6	7
6ヶ月～1年未満	0	11	11	0	4	4	0	7	7
1年～1年6ヶ月未満	0	9	9	0	3	3	0	6	6
1年6ヶ月～2年未満	0	4	4	0	1	1	0	3	3
2年～3年未満	1	6	7	0	3	3	1	3	4
3年～4年未満	2	7	9	0	4	4	2	3	5
4年～5年未満	0	1	1	0	0	0	0	1	1
5年～6年未満	0	4	4	0	3	3	0	1	1
6年～7年未満	0	3	3	0	1	1	0	2	2
7年～8年未満	0	1	1	0	0	0	0	1	1
8年～9年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9年～10年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10年～20年未満	0	5	5	0	3	3	0	2	2
20年以上	0	1	1	0	1	1	0	0	0
総計	17	134	151	7	81	88	10	53	63

5-① 入院時の住所地区分

入院時の住所地区分	全市	市内病院	市外病院
堺市	1,457	921	536

5-② 入院時の住所地区分(寛解・院内寛解対象)

入院時の住所地区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
堺市	17	134	151	7	81	88	10	53	63

6-① 病状区分

病状区分	全市	市内病院	市外病院
寛解	17	7	10
院内寛解	134	81	53
軽度	310	195	115
中度	565	384	181
重度	377	227	150
最重度	54	27	27
総計	1,457	921	536

7-① 退院阻害要因の有無(寛解・院内寛解対象)

退院阻害要因の有無	全市	市内病院	市外病院
退院阻害要因がある	44	21	23
退院阻害要因はない	16	5	11
病状(主症状)が不安定で入院による治療が必要	33	25	8
退院予定	58	37	21
総計	151	88	63

7-② 退院阻害要因(寛解・院内寛解対象)

※複数回答可能

退院阻害要因	全市	市内病院	市外病院
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている。	11	3	8
病識がなく通院服薬の中断が予測される	10	3	7
反社会的行動が予測される	5	3	2
退院意欲が乏しい	21	11	10
現実認識が乏しい	10	4	6
退院による環境変化への不安が強い	14	11	3
援助者との対人関係がもてない	2	0	2
家事(食事・洗濯・金銭管理など)ができない	13	8	5
家族がいない・本人をサポートする機能が実質ない	5	1	4
家族から退院に反対がある	9	3	6
住まいの確保ができない	8	4	4
生活費の確保ができない	1	1	0
日常生活を支える制度がない	1	0	1
救急診療体制がない	0	0	0
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	2	0	2
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい	1	0	1
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにくい	0	0	0
身体的機能や状態を原因としたADLの低下がある	2	2	0
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	1	0	1
その他	0	0	0

在院患者調査記入の手引き

※昨年度から変更点がございましたので、ご注意ください。

注意点

☆昨年度の調査票から変更があります。昨年度のデータをそのまま貼り付けると、ずれたりエラーになる場合があったりしますので、ご注意ください。

☆「**退院阻害要因**」に**2項目追加**があります。

18 身体的機能や状態を原因とした ADL の低下がある

19 身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難

追加に伴い、阻害要因の番号が変更になっているものがあります。

退院阻害要因はこれまで通り複数回答になります。該当するもの全ての番号を記入してください。

Excel のシート 2 枚（「基礎情報シート」「調査記入シート」）にご入力ください。

○基礎情報シート

病院名、病床数、御担当者のお名前等について橙のセルに記入ください。

（橙のセルが全て無くなるようにお願いいたします。）

○在院患者調査記入シート

（1）病院名と病院所在地（政令市は区まで）は「基礎情報シート」入力分が自動入力されます。

（2）国の「精神保健福祉資料（630 調査）」で御記入いただいた調査票の中のエクセルシート「精神病床票 2」で入力した内容をコピーして、在院患者調査の調査記入シートに貼り付けてください。（形式を選択するなど「値貼り付け」を実施してください。）

（630 調査で選択肢のあるセルは、選択肢通りの記載になるようにしてください。

全角や半角、「0」やカッコのあるなしの違いでエラーになる可能性があります。）

（国の 630 調査分も在院患者調査も、どちらも必ず今年度の調査票に入力してください。）

※要確認

（3）在院患者調査票の右側にある**追加項目の部分**を御記入ください。

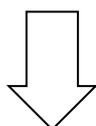
①**状態像区分**→プルダウンメニュー（下記の 6 つの状態像から一つ選択）から選んでください。

状態像について、次の区分・基準による番号を御記入ください。（区分及び基準は、平成 5 年 1 月に社団法人日本精神病院協会が実施された在院患者調査を参考にしております。）「基準」の各項目は各区分の代表的な特徴を示したものです。区分を決定するにあたって、当該基準の全項目を満たす必要はありません。アルコール症、中毒性疾患に関しては、身体合併症、管理上の問題を併せて総合的に判断してください。

番号	状態像区分	基準
1	寛解	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 寛解状態にあるが、家族の受け入れ困難や生活の場の困難などの社会的要因により退院できないでいるもの ◇ 最小限の服薬は続けているが、社会生活上の支障は認められず、自立して生活出来ると予測されるもの
2	院内寛解	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 院内の保護的環境においては、日常生活に問題はないが、一般社会においては不適応、症状増悪、再燃を起こしやすいもの ◇ 社会技能訓練等の包括的なリハビリテーション・プログラムにより、ある程度の自立性が期待できるもの
3	軽度	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 日常生活機能が軽度障害されているもの ◇ 病状が安定しつつあるか、または病状固定し、院内の薬物療法、生活療法下では日常生活に問題はないが、社会適応させるためには強力な精神科リハビリテーションを必要とするもの
4	中等度	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 残遺状態（無関心、無為等） ◇ 慢性の幻覚妄想状態など、症状遷延しているが、著しい問題行動はないもの ◇ 日常生活機能が中程度障害されているもの ◇ 中程度のうつ状態、そう状態
5	重度	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 陽性症状、或いは認知症のため行動の乱れが著しいもの ◇ 問題行動を伴う精神症状があり、治療抵抗性のもの ◇ 精神症状のために日常生活機能が障害され、きわめて濃厚な看護及び介護を要するもの ◇ 自殺企図あるうつ状態、そう状態の極期
6	最重度	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 重大な他害行為が予測され、嚴重かつ持続的な注意を要するもの ◇ 精神症状、人格水準の低下、認知症等により、著しい問題行動があり、たえず嚴重な注意を要するもの

② **退院予定の有無** → プルダウンメニュー（下記の3つから一つ選択）から選んでください。

番号	退院予定の有無
97	病状（主症状）が落ち着き、入院によらない形で治療ができるまで回復
98	病状（主症状）が不安定で入院による治療が必要
99	退院予定

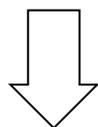


「97 病状（主症状）が落ち着き、入院によらない形で治療ができるまで回復」を選んだ場合は、③退院阻害要因についての選択をお願いします。

③ **退院阻害要因**

退院を阻害している要因の有無について、プルダウンメニューから選んでください。

番 号	退院阻害要因の有無
90	退院阻害要因はない
91	退院阻害要因がある



「91 退院阻害要因がある」を選んだ場合のみ、下記の中から具体的要因を選び、該当する番号（1～18）を御記入ください（複数回答可）。
回答はカンマ「,」で区切ってください。

「91 退院阻害要因がある」場合の具体的要因（複数回答可）

※令和4年度から追加項目があります！複数回答可です

1	病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている
2	病識がなく通院服薬の中断が予測される
3	反社会的行動が予測される
4	退院意欲が乏しい
5	現実認識が乏しい
6	退院による環境変化への不安が強い
7	援助者との対人関係がもてない
8	家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない
9	家族がいない、本人をサポートする機能が実質ない
10	家族が退院に反対している
11	住まいの確保ができない
12	生活費の確保ができない
13	日常生活を支える制度がない
14	救急診療体制がない
15	退院に向けてサポートする人的資源が乏しい
16	退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい
17	住所地と入院先の距離があり支援体制がとりにくい
18	身体的機能や状態を原因とした ADL の低下がある
19	身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難
20	その他の退院阻害要因がある

※昨年度から番号が変更になっている場合もあります。必ず今年度の手引きで御確認ください。

**令和 4 年度
精神科在院患者調査報告書 [堺市版]**

令和 5 年 12 月発行

発行 堺市健康福祉局 障害福祉部 障害施策推進課
〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号
TEL 072-228-7818
FAX 072-228-8918